



## 成人式 フォトレポート



## 令和4年 川根本町成人式 責任と自覚を胸に「一歩」を踏み出す

1月9日（日）、文化会館で執り行われた令和4年川根本町成人式。今年は、男性21人、女性23人の計44人がハタチの節目を迎えました。本号では当日のフォトレポートと新成人となった皆さんのインタビューを紹介しています。

【問】 社会教育課 ☎ (58) 7080

晴れやかな青空が広がった1月9日。この日、44人の新成人（平成13年4月2日〜平成14年4月1日生まれ）が責任と自覚を胸に大人への一歩を踏み出しました。

会場の文化会館に、色鮮やかな振り袖や真新しいスーツを身にまとって集まる新成人たち。「久しぶりー！元気にしてた？」と再会を喜ぶ姿が至る所にあふれていました。

式典では、菌田町長が「新成人の皆さんのこれからの道のりは、決して平坦ではありません。一日一日を大切に積み重ね、十年後、二十年後の自分自身の理想を思い描きながら、夢に向かって努力し、歩みを進めてください」と新成人にエールを贈りました。

来賓からの祝福や激励の言葉を受け、新成人を代表して佐野青空さんが「二十歳という大きな節目を迎えることができただけは、家族や友人をはじめ、先生方など今まで関わってくださった方々のおかげです。これからは、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、自分たちの人生を歩み、社会に貢献できるように日々まい進していくことを誓います」と謝辞を述べました。

式典内では、新成人たちの小・中学校の頃の懐かしい姿がスライドショーで上映されました。幼くあどけない姿が映し出される度に、会場は温かな歓声に包まれました。

また、昨年は新型コロナウイルスの影響で中止になった赤石太鼓が、1年ぶりに演奏され、今年も2人の新成人が奏者となって登壇しました。スーツ姿で一心不乱に太鼓に向かった栗原佑太さんと上田虎之介さん。額に汗を光らせながら「家族や地域の皆さんには日頃の感謝を、そして同級生には成長した姿を見てほしくて精一杯叩きました。私たち新成人の新しい門出を祝えれば」と栗原さんは、はつらつとした笑顔で話しました。

マスク着用、間隔を空けた席の配置、入場時の手指の消毒や検温の実施、新成人を対象に行った抗原検査など、昨年に引き続き感染症対策を徹底した中で行われた成人式。いまだ、収束の兆しを見せない新型コロナウイルス感染症は、新成人の皆さんにとって、多くの脅威に感じられます。しかし、そんな困難にも力強く柔軟に立ち向かい、自身の夢に向かって突き進んでくれることと信じています。新成人の皆さん、頑張ってください！